

# 日本香粧品学会

## 第49回 教育セミナー プログラム

---

### 皮膚から“情報”を得る ～ヒトの皮膚こそデータの宝庫～

---

#### ご挨拶

最新の技術により皮膚から非侵襲的に得られる様々な情報は、皮膚機能の評価、疾病の診断、老化の評価、そして新規香粧品や治療薬の効果判定に役立ち、さらに皮膚疾患の未知の病態を解明する上でも極めて重要です。

2024年度、教育セミナーのテーマは『皮膚から情報を得る～ヒトの皮膚こそデータの宝庫～』です。今回、皮膚の表面観察、皮膚常在細菌叢、皮膚ガス、画像解析、顔情報という様々な観点から得られる情報と疾病や健康状態との関連について、6名の専門家にご講演いただきます。皮膚から情報を得るための様々な最先端のストラテジーをご紹介いただき、皮膚の疾病、生活習慣、メンタルヘルスや老化との関連を具体的にご説明いただきます。

本セミナーは新型コロナウイルス感染症が「普通のカゼ」に移行しつつある現状を鑑み、今回も昨年同様に現地でのみの開催といたしました。ご参加の皆様におかれましては、皮膚から情報を得る具体的な手段、得られた膨大な情報の評価法、解釈に加えて、ぜひ参加者同士の交流や演者の先生方との自由で活発な質疑応答も楽しんでいただければ幸いです。

今回のセミナーから得られる種々の最新知見が、皆様方の今後の香粧品学研究の発展や商品開発に少しでも役立ちますことを祈念いたします。

学術委員長 森脇 真一

# 日本香粧品学会 第49回教育セミナー プログラム

10:30~10:35 開会挨拶 委員長 森脇 真一 (大阪医科薬科大学)

10:35~11:25 1. 色素の色や形を見分けて皮膚の状態を知る

座長 遠藤 雄二郎 (ライオン株式会社)  
田中 勝 (杏林大学)

11:25~12:15 2. 皮膚マイクロバイオームとアトピー性皮膚炎

座長 飯村 菜穂子 (新潟薬科大学)  
松岡 悠美 (大阪大学)

12:15~13:35 昼食休憩

13:35~14:25 3. 皮膚ガスをヘルスケアに活用する

座長 原田 努 (昭和大学)  
関根 嘉香 (東海大学)

14:25~15:15 4. CT・MRI を用い皮膚深部の解剖学的情報から顔のタルミに迫る

座長 森脇 真一 (大阪医科薬科大学)  
奥田 逸子 (加嚙論画像研究所 ONI)

15:15~15:40 休憩

15:40~16:30 5. 顔情報から未来のシワを予測する

座長 山田 勝久 (ディーエイチシー)  
中村 理恵 (コーセー)

16:30~17:40 6. 顔の情報からからだ・こころの状態を知る

座長 水谷 多恵子 (CIEL)  
本川 智紀 (ポーラ)

17:40~17:45 閉会挨拶 副委員長 沖山 康子 (日本ロレアル)

17:45~18:10 演者と参加者との名刺交換

開催日：2024年11月8日(金)

会場：東京証券会館

\*アクセスは最終ページの地図をご参照ください

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町一丁目5番8号

東京証券会館8階 (TEL. 03-3667-9210)

参加費：会員	13,000円(事前)	15,000円(通常)
非会員	18,000円(事前)	20,000円(通常)
学生会員	1,000円(事前)	2,000円(通常)
学生非会員	2,000円(事前)	3,000円(通常)

\*賛助会員の企業に所属している方は会員価格です。

\*詳細はHPをご覧ください。

## Points of Interest!

### 色素の色や形を見分けて皮膚の状態を知る

[田中 勝 先生]

ダーモスコープは、主に3つの要素で構成される。① 10倍程度に拡大、② 明るい照明下で観察、③ 表面反射を除去して皮膚内部の構造や色を観察、の3点である。表面反射を除去する方法には、① ジェルを使う、② 偏光フィルタを用いる、の2つがある。ダーモスコープは皮膚を非侵襲的に肉眼では見えない所見を観察する機器として、極めて有用である。日常的な皮膚科診療において、すべての皮疹を詳細に観察するためにもちいられる。

### 皮膚マイクロバイームとアトピー性皮膚炎

[松岡 悠美 先生]

乳幼児期アトピー性皮膚炎（Atopic dermatitis, 以下 AD）発症はアレルギーマーチの起点となるためその予防法の確立は急務である。これまでに、様々な介入研究が世界で行われ早期の皮膚への介入が乳幼児期 AD の予防に重要であることが明らかになりつつある。しかしながらどのような皮膚の因子がその後の AD 発症に影響しているのかははまだ明らかではない。AD 発症には外的因子として細菌クオラムセンシングなどをはじめとして、どのような菌叢由来因子が関連するのか、またどのような介入が予防に効果的なのか、これまでの周辺領域の研究の潮流を概説するとともに、我々の研究結果について紹介する。

### 皮膚ガスをヘルスケアに活用する

[関根 嘉香 先生]

“皮膚ガス”は体表面から放散される微量な生体ガスであり、体においの原因となる。近年の分析技術の進展により、皮膚ガスの種類・量には、ヒトの身体的・生理的・心理的な状態、疾病の有無、生活習慣や生活環境などが強く関与することがわかってきた。本講演では、加齢臭や疲労臭などを例に、皮膚ガスの生成メカニズムや放散経路について概説し、さらにヘルスケアに有用な生体情報としての利用可能性について述べる。

## Points of Interest!

### CT・MRI を用い皮膚深部の解剖学的情報から顔のタルミに迫る

[奥田 逸子 先生]

近年の革新的に進化した画像診断学は体表だけでなく体内構造物の視覚化を容易にした。CT は多くの画像情報を含んでおり、MRI は高い組織分解能を有する利点がある。これらの画像診断装置や画像解析装置を活用することで、顔面皮膚深部の詳細な解剖学的情報が得られ、加齢性変化を非侵襲的に把握することができる。本講演では加齢容貌に関する解剖学的構造物の画像所見を提示するとともに、容貌変化との関係について概説する。

### 顔情報から未来のシワを予測する

[中村 理恵 先生]

予測モデルの開発は、近年、飛躍的に発展した臨床統計学の方法論のひとつです。なかでも、予後予測モデルは、潜在的なリスク（例えば年齢や性別など）を予測子として、対象となる事象が発生する確率を推定し、その時点での最良の予防策を根拠に基づき導きだすことを可能にします。本セミナーでは、統計学の基礎的な知識を交えながら、シワをアウトカムとした予測モデル開発の事例を通して、予測モデルの開発と評価方法を解説します。

### 顔の情報からからだ・こころの状態を知る

[本川 智紀 先生]

私達は Well-being 世界の実現に向けて、化粧品関連技術を応用した研究開発を行っています。その中で、顔の情報（顔画像・顔動画・角層画像・顔観察情報）から、疲労、不眠、メンタル状態、体内酸化状態、自律神経状態などの様々なからだ・こころの状態を網羅的に推定する技術を構築しました。本発表では本技術の紹介とその応用事例、さらには今後の展望についてお話しします。

参加申込方法：

日本化粧品学会 第49回教育セミナー

学会ホームページ (<http://www.jcss.jp/event/seminar>) より  
事前登録

参加費支払い；郵便振替もしくはクレジット決済

※一旦払い込まれた参加費は払い戻しできません。

参加申込開始：2024年9月2日(月) 予定

連絡先：

日本化粧品学会 教育セミナー事務局

〒162-0801

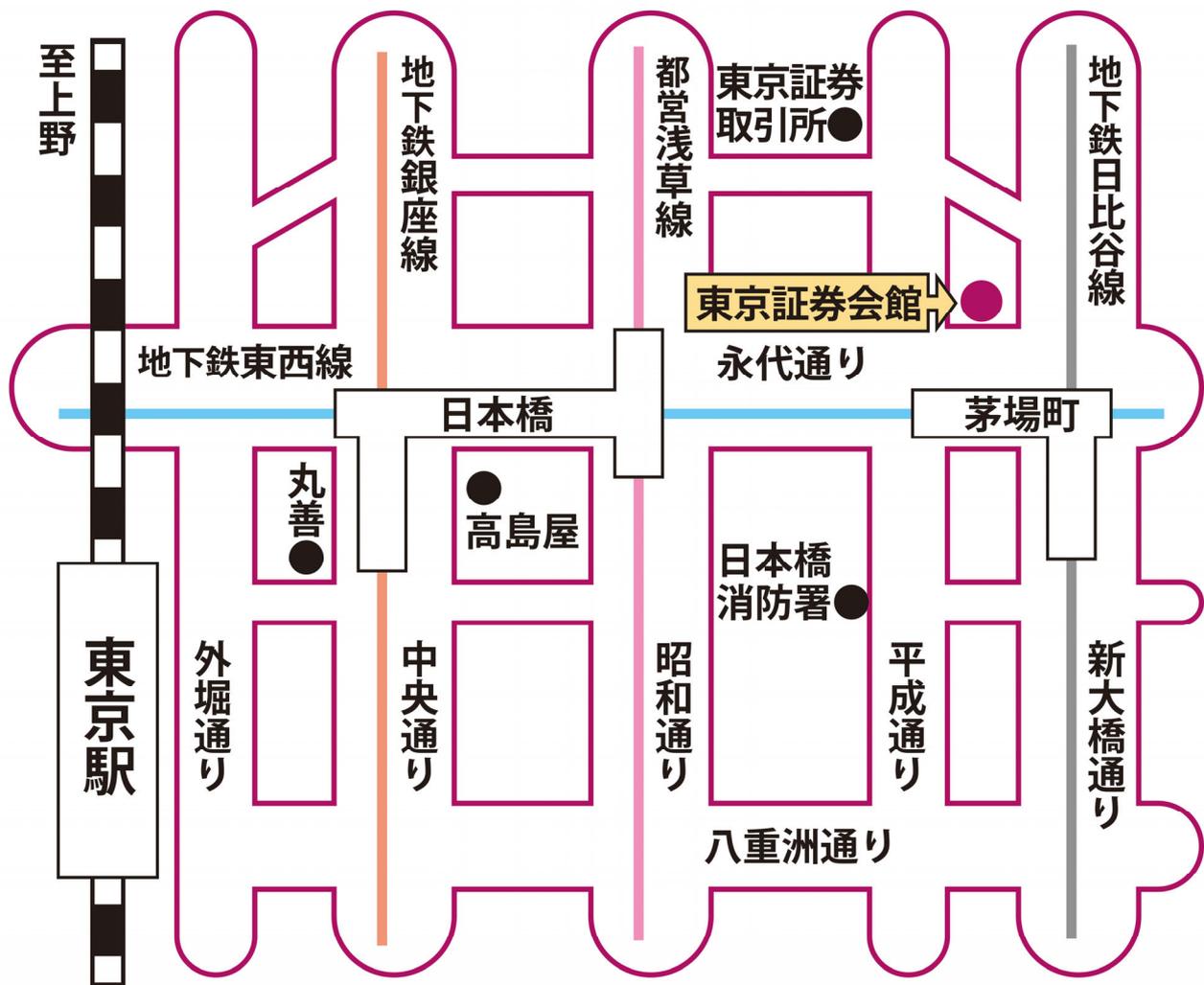
東京都新宿区山吹町358-5

アカデミーセンター

TEL. 03-6824-9367

FAX. 03-5227-8632

E-mail. [jcs-semi@conf.bunken.co.jp](mailto:jcs-semi@conf.bunken.co.jp)



■東京メトロ 東西線・日比谷線 茅場町駅8番出口直結

■東京メトロ 銀座線・東西線、都営浅草線 日本橋駅

■JR 東京駅 八重洲北口 徒歩10分

D2出口 徒歩5分